

モーリタニア月例報告
(2018年1月及び2月)

2018年3月7日
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【外政】

- 1月28日 G5サヘル合同軍総司令官のモーリタニア訪問
- 2月 3日 サル・セネガル大統領の当地訪問決定
- 2月 5日 アブデル・アジズ大統領のG5サヘル首脳会合参加
- 2月 7日 イジードビヒ外相の独訪問
- 2月 8日 アブデル・アジズ大統領とマクロン仏大統領との電話会談
- 2月 8日 G5サヘル合同軍支援会合へのアブデル・アジズ大統領招待
- 2月 8日 イジードビヒ外相とケーラー西サハラ担当国連事務総長特使との協議
- 2月 8日 サル・セネガル大統領の当地訪問
- 2月12日 スペイン内務大臣の当地訪問
- 2月13日 EUサヘル地域特使の当地訪問
- 2月20日 モーリタニア・サウジアラビア関係
- 2月27日 サハラ・アラブ民主共和国元首相の当地訪問
- 2月28日 エルドアン・トルコ大統領の当地訪問

【経済・開発協力】

- 1月11日 食糧援助に係るE/N等署名式への清水大使出席
- 2月12日 FAOによるサバクトビバッタ対策支援
- 2月16日 古澤満宏 IMF 副専務理事の当地訪問
- 2月28日 草の根・人間の安全保障無償資金協力案件署名式への清水大使出席

【治安情勢】

- 1月12日 仏軍車列襲撃事件に係る「ISIL 大サハラ」犯行声明
- 1月30日 マリ軍兵士殺害事件等に係る「イスラムとムスリムの支援団」犯行声明
- 2月23日 仏軍人死傷事案に係る「イスラムとムスリムの支援団」犯行声明

【広報文化】

- 2月17日 柔道日本大使杯の実施

【外政】

●G5サヘル合同軍総司令官のモーリタニア訪問

1 1月28日から2月1日、G5サヘル合同軍総司令官であるディディエ・ダッコ(Didier DACKO)将軍(マリ人)はモーリタニアを訪問した。

2 同訪問中、ダッコ将軍はガズワニ・モーリタニア軍総司令官他、政治家、軍関係者等との会談を行った。

3 また、Salem Vall Ould Isselmou大佐が(モーリタニア及びマリを含む)西部地帯共同管区内を指揮することが決定し、同区内のNbeikit拠点(モーリタニア領内)を指揮する士官も指名された。

4 さらに、G5サヘル合同軍のモーリタニア大隊に関しては、Mohamed Cheikh Ould Khreive大佐が指揮する予定となっている。

5 消極的態度を批判される中、モーリタニアは、バルカン又作戦の支援を受けて1月15日に開始した第2回G5サヘル合同軍軍事作戦が終了するタイミングで、同軍の実施に関する初めての具体的措置に踏み切る。

(2月4日付当地独立系ニュースウェブサイト「クリデム」(仏語))

●サル・セネガル大統領の当地訪問決定

1 2月3日、サル・セネガル大統領は、マクロン仏大統領と共にセネガル北部の都市サン・ルイを訪問した際、8日にモーリタニアを訪問し、アブデル・アジズ大統領と解決すべき「全ての問題」について協議すると発表した。

2 また、サル大統領は、モーリタニア・セネガル国境間に跨がる天然ガス田の開発問題に加え、セネガル人漁民に対するモーリタニアでの労働許可問題についてもモーリタニア法制度を尊重する形で解決されなければならないと述べた。

3 1月27日にモーリタニア海軍が、自国領海内において違法操業を行っていたセネガル人漁民に対して発砲し、セネガル漁民1名が死亡、8名がモーリタニア沿岸警備隊によって逮捕されたことを受け、1月29日にはサン・ルイにおいて暴徒化したセネガル漁民がモーリタニア人経営の商店を襲撃する事件が発生するなど、両国関係は緊張状態にある。

(2月3日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」(アラビア語))

●大統領のG5サヘル首脳会合参加

1 アブデル・アジズ大統領のニジェール到着

2月5日、アブデル・アジズ大統領は、G5サヘル首脳会合及び第18回サ

ヘル地域国家間干ばつ対策委員会（CILSS）首脳会合への参加のため、ニジェールの首都ニアメに到着した。同大統領の今次ニジェール訪問には、ディヤロ国防大臣、ジャイ経済・財務大臣及びウルド・マンマ農業大臣の閣僚3名を含む7名が同行（2月6日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

2 第4回G5サヘル首脳会合

（1）2月6日、アブデル・アジズ大統領は、G5サヘル諸国首脳と共に、ニジェールの首都ニアメで開催された第4回G5サヘル首脳会合に出席した。

（2）閉会セッションにおいて、ナッジーム前G5サヘル事務局常駐代表が要旨以下のとおり声明を発表した。

ア 今次G5サヘル首脳会談では、リビア危機の影響を受け、引き続き大きな課題に直面するサヘル地域の状況につき協議が行われた。

イ G5サヘル首脳は、国際社会からのG5サヘル及び同戦略計画に対する支援を高く評価しており、国連安保理に対して、G5サヘル合同軍の任務を国連憲章第7章に組み込むことを要請する。

ウ G5サヘル首脳は、チャドにおけるサヘル鉄道の建設及び警察学校の設立、ヌアクショットにおける軍事学校の設立及びサヘル地域における投資計画の策定を決定した。

エ G5サヘル首脳は、ママン・サンボ・シディコ元ニジェール外相をG5サヘル事務局常駐代表に任命し、2019年2月次回首脳会合開催地をワガドゥグに決定した。

（5）なお、同首脳会合には、サウジアラビア、ア首連、中国、英国、スペイン、イタリア、ロシア、オランダ、国連、EU及びイスラム協力機構の代表団も出席した。

3 マージンでのバイ会談

（1）チャド大統領との会談

2月6日、アブデル・アジズ大統領は、デビー・イトゥノ・チャド大統領と会談を行い、モーリタニア・チャド二国間関係及びG5サヘル諸国によるサヘル地域における平和と安定実現の方途について協議した。

（2）仏国防大臣との会談

同日、アブデル・アジズ大統領は、G5サヘル首脳会合出席のためニジェール訪問中のパルリ仏国防大臣と会談を行い、モーリタニア・仏二国間協力、G5サヘルによる地域の平和と安定実現のための取組及びかかる取組に対する支援の方途について協議した（2月7日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

4 CILSS 首脳会合

CILSS首脳会合では、サヘル地域の食糧安全保障及び同地域の平和と安定にとって重要課題となっている砂漠化の進行を含む気候変動に起因する諸問題の解

決策について協議された（2月8日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

5 アブデル・アジズ大統領の帰国

2月7日夜、アブデル・アジズ大統領は帰国した（2月8日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

● ケーラー西サハラ担当国連事務総長特使との協議のためのイジードビヒ外相の独訪問

2月7日、イジードビヒ外相は、ケーラー西サハラ担当国連事務総長特使との協議のため、ベルリンに向けてヌアクショットを出発した。外相のベルリン訪問には、モハメド・ラミン・ダダ大統領府顧問及びジャル・イナラ外務・協力省国際協力局長が同行する（2月8日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

● アブデル・アジズ大統領とマクロン仏大統領との電話会談

2月8日、アブデル・アジズ大統領はマクロン仏大統領と電話会談を行い、同会談ではモーリタニア・仏二国間関係、同関係強化のための方途、地域・国際情勢及び地域の諸課題につき協議された（2月9日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

● G5サヘル合同軍支援会合への招待

2月8日、ジャコモ・デュラゾ当地EU大使はアブデル・アジズ大統領に対し、23日にブリュッセルにおいて開催されるG5サヘル合同軍支援会合への欧州委員会委員長、欧州議会議長及びG5サヘル議長（マリ大統領）宛アブデル・アジズ大統領宛招待状を手交した（2月9日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

● イジードビヒ外相とケーラー西サハラ担当国連事務総長特使との協議

2月8日、ベルリンを訪問していたイジードビヒ外相は、ケーラー西サハラ担当国連事務総長特使との協議を行った。同協議には、モハメド・ラミン・ダダ大統領府顧問及びジャル・イナラ外務・協力省国際協力局長が同席した。（2月12日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

● サル・セネガル大統領の当地訪問

1 首脳会談（第1回）（2月9日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語紙））

（1）2月8日夜、サル・セネガル大統領がヌアクショット国際空港に到着し、

アブデル・アジズ大統領、ハッターミン首相、ガズワニ国軍参謀総長らに出迎えられた。

(2) アブデル・アジズ大統領は、サル大統領のヌアクショット到着直後に同空港VIPホールにおいてサル大統領とテタテで会談を行った。

(3) 同会談後、両国政府要人同席の拡大会合が行われ、モーリタニア・セネガル二国間関係強化の方途、地域・国際情勢及び共通の関心事項につき協議された。モーリタニア側からは、ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣、シュルーカ漁業・水産経済大臣、スウィーナ畜産大臣、カマラ環境・持続可能な開発担当大臣、ファール外務大臣付マグレブ・アフリカ連合兼在外モーリタニア人担当大臣らが同席した。

2 首脳会談（第2回）（2月12日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語紙））

(1) 2月9日朝、アブデル・アジズ大統領は、大統領府においてサル・セネガル大統領とテタテでサル大統領訪問中2回目の会談を行った。

(2) 同会談後、両国政府要人同席の拡大会合が行われ、モーリタニア・セネガル二国間関係強化の方途、地域・国際情勢及び共通の関心事項につき協議された。

3 共同声明の発表（2月12日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語紙））

同日朝、両首脳は要旨以下のとおり共同声明を発表した。

(1) 天然ガス開発

両首脳は、両国の国境間の沖合に位置するガス田であるGrand Tortue Ahmeyin (GTA) の開発に関し合意した。

(2) 漁業協定

両首脳は、水産資源の利用方法につき協議し、両国の漁業大臣に対し、漁業分野における両国の協力促進のための二国間協定に3月末までに署名するよう指示を与えた。

(3) 懸案事項

両首脳は、モーリタニア沖でのセネガル人漁師死亡事案及びサンルイでのモーリタニア人経営商店への略奪事案に対して遺憾の意を表明するとともに、このような事案を避け、漁業分野における両国の更なる協力関係を強化するため、漁業関連法令の遵守を呼びかけた。

(4) 出入国管理

両首脳は、両国の内務大臣に対し、3月末までにダカールにおいて両国間の入国及び滞在に関する合意への署名を行うよう指示を与えた。

(5) 畜産分野

両首脳は、両国の畜産関連の大臣に対し、3月から4月までの間にセネガル

においてモーリタニア人家畜所有者のセネガルでの放牧問題及び家畜の輸出入に関する合同委員会を開催するよう指示を与えた。

(6) 今次訪問フォローアップ

両首脳は、これまでの両国間の合意事項が確実に実施されるようフォローアップするためのユニットを両国政府内に設置することで合意した。

(7) セネガル川流域開発

両首脳は、セネガル川流域開発公社 (OMVS) を強固な地域協力の模範例として、同枠組みに従事していくことを再確認した。

(8) 砂漠化対策

両首脳は、サヘル地域国家間干ばつ対策委員会 (CILSS) 及びパン・アフリカン「緑の長城」機構 (APGMX) がサヘル地域の砂漠化対策において果たす役割の重要性を強調した。

(9) パレスチナ問題

両首脳は、米国によるエルサレムのイスラエル首都承認に対し遺憾の意を表明するとともに、国際法及び関連安保理決議に基づき、エルサレムを首都とするパレスチナ独立国家建設のための平和解決手段を全面的に支持することを確認した。

(10) 安保理改革

両首脳は、エズルウェニ合意で示されたアフリカの共通ポジションを堅持し、国連安保理が現在の世界が置かれた地政学的現実をより反映するような国連安保理改革の必要性を確認した。

(11) その他

サル・セネガル大統領は、今次訪問の返礼として、アブデル・アジズ大統領をセネガルへ招待し、アブデル・アジズ大統領は快諾した。

4 両首脳による記者会見 (2月12日付当地政府系紙「シャアブ」(アラビア語紙))

2月9日夜、両首脳はヌアクショット国際空港VIPホールにおいて記者会見を行い、要旨以下のとおり発言した。

(1) アブデル・アジズ大統領

ア 今後両国が締結する漁業協定は両国にとって極めて重要な海洋資源の適切な利用を担保するためのものである。

イ ロッソ橋 (当館注: モーリタニア及びセネガルに跨がるセネガル川に掛かる全長1,500メートルの橋) 整備計画への融資は完了しており、まもなく建設を開始する。同計画は、モーリタニア人及びセネガル人労働者に対する雇用創出に資するものである。

ウ また、KOSMOS社及びBP社がGTAガス田の開発に取り組んでいく。

(2) サル・セネガル大統領

ア MINUSMAの活動にも参加するなどサヘル地域の平和と安定に貢献しているセネガルは、G5サヘルの取組を全面的に支援する。

イ セネガル漁民の要望をモーリタニア側に伝達した。今後、両国の漁業大臣が、セネガル漁民がモーリタニア国内法の定める諸条件を遵守しモーリタニアにおいて漁業活動に従事できるよう協議する。

●スペイン内務大臣の当地訪問

1 アブデッラ内務・地方分権大臣との会談

2月12日朝、アブデッラ内務・地方分権大臣は、同省にて、当地訪問中のゾイド・スペイン内務大臣と会談を行い、治安分野における二国間協力の方途につき協議した。同会談において、両大臣は要旨以下のとおり発言した。

(1) アブデッラ内務・地方分権大臣

モーリタニア・スペイン両国の関係は理想的。特に2015年5月26日にマドリードにおいて、テロ・組織犯罪・不法移住対策、(治安分野での)情報交換、技術協力、行政機関の現代化、研修等を含む治安協力協定が締結されて以降、両国の関係は更に強化。研修分野におけるスペインのロジスティックス支援に感謝。

(2) ゾイド・スペイン内務大臣

モーリタニアは、スペインにとって、治安分野を含む様々な分野における主要なパートナー。スペインは、モーリタニアに対し、麻薬・不法移住・テロ対策、合同パトロール、インフラ及び戸籍管理の分野において、より一層の協力をするとともに、ヌアクショットとブリュッセルをつなぐ架け橋となる準備がある。

2 ハッターミン首相との会談

2月12日午後、ハッターミン首相は、首相府にて、ゾイド・スペイン内務大臣と会談を行い、長距離道路における安全対策を含む幅広い分野での二国間協力の方途につき協議した。なお、同会談には、モーリタニア政府側からアブデッラ内務・地方分権大臣及びバルディード首相府官房長が、スペイン政府側からアグアド当地スペイン大使が同席した。

3 モーリタニア・スペイン合同警察本部(ヌアディブ市)訪問

2月12日夕刻、アブデッラ内務・地方分権大臣はゾイド・スペイン内務大臣と共にヌアディブ市のモーリタニア・スペイン合同警察チーム本部を訪問した。同訪問には、ダフ・ヌアディブ経済特区総裁を含む政府高官が同行した。同合同チームは、不法移住抑止組織の解体及び不法移住防止を目的として2008年2月17日に結成され、これまで多くの不法移民を検挙してきた。近

年、モーリタニアにおける不法移住は1件も記録されていないが、これはひとえに同合同チームの貢献によるものである（2月13日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

●EUサヘル地域特使の当地訪問

1 アブデル・アジズ大統領との会談

(1) 2月13日午後、アブデル・アジズ大統領は、大統領府において、当地訪問中のEUサヘル地域特使と会談を行い、同会談では、24日にブリュッセルで開催されるEU・G5サヘル会議及びG5サヘル合同軍の作戦開始のための方途につき協議された。同会談には、バヒヤ大統領府官房長及びジャコモ・デュラゾ当地EU大使が同席した。

(2) また、両者は、マリ情勢を含む周辺地域の政治情勢について意見交換を行うとともに、G5サヘル合同軍展開がG5サヘル及びアブデル・アジズ大統領にとって力強い後押しとなる点について一致した。

2 イジードビヒ外相との会談

同日、イジードビヒ外相は、外務・協力省において、当地訪問中のEUサヘル地域特使と会談を行った。同会談には、外務・協力省欧州局長が同席した。

3 ディヤロ国防大臣との会談

同日午前、ディヤロ国防大臣は、国防省において、当地訪問中のEUサヘル地域特使一行と会談を行い、同会談では、サヘル地域治安情勢、G5サヘル合同軍に対する財政支援及びブリュッセルで開催されるG5サヘル支援国会合につき協議された。同会談には、国防省次官が同席した。

(14日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））

●モーリタニア・サウジアラビア関係

1 サウジアラビア政府系紙「リヤド」は、サウジアラビアのアフリカでの着実な政策、投資及び同盟関係の構築により、モーリタニアを含むアフリカ諸国がサウジアラビアに対し完全な忠誠を誓うようになったと報じている。

2 同紙は、モーリタニア、エリトリア、セネガル、ソマリア、リビア及びチャドといったサヘル諸国は、もはやイラン陣営ではなく、すでにサウジアラビアに忠誠を誓っており、イエメン問題についてもサウジアラビアの立場を支持するようになったと報じた。

3 また、同紙は、現在のサウジアラビアのアフリカでの地位を称賛するとともに、サウジアラビアとG5サヘルとの同盟関係が、アフリカにおいてサウジアラビアを重要なプレーヤーたらしめたと分析している（サウジアラビア政府系紙「リヤド」を引用した2月20日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル・アフパール」（アラビア語））。

●サハラ・アラブ民主共和国元首相の当地訪問

2月27日、アブデル・アジズ大統領が、大統領府において当地訪問中のアブデルカデル・タレブ・オマール（Abdelkader Taleb Omar）「サハラ・アラブ民主共和国（RASD）元首相」兼RASD「大統領」特使と会談を行い、同特使から西サハラ問題をめぐる最新情勢、膠着した現状を打開するための和平プロセス及び同プロセス進展のための支援等に係るRASD「大統領」の意向が記された「大統領」書簡を受け取った（2月28日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

●エルドアン・トルコ大統領の当地訪問

1 首脳会談

（1）2月28日午後、エルドアン・トルコ大統領がヌアクショット国際空港に到着し、アブデル・アジズ大統領、同大統領夫人、ハッダーミン首相、ガズワニ国軍参謀総長らに出迎えられた。同訪問には、エミネ大統領夫人、チャヴシュオール外務大臣、アルバイラク・エネルギー天然資源大臣、クルトゥルムシュ文化観光大臣、テュフェンキジ税関貿易大臣及びファクババ食料・農業・畜産大臣が同行した。

（2）アブデル・アジズ大統領は、エルドアン大統領のヌアクショット到着直後に同空港VIPホールにおいて同大統領とテタテで会談を行った。同会談後、両国政府要人同席の拡大会合が行われ、地域・国際情勢、共通の関心事項及びモーリタニア・トルコ二国間関係強化の方途につき協議された。

（3）空港での会談に続き、アブデル・アジズ大統領は、大統領府においてエルドアン大統領とテタテで2回目の会談を行い、その後、両国政府要人同席の拡大会合が行われた。

2 二国間協定締結

同日夕刻、両国の関係閣僚はモーリタニア大統領府において、両首脳の立ち会いの下、以下の二国間協定を締結した。

- （1）投資の保護及び促進のための協定
- （2）炭化水素及び鉱物分野での了解覚書
- （3）漁業・海洋分野での協力協定
- （4）観光分野での協定
- （5）農業分野での了解覚書
- （6）ディアスポラに係る了解覚書
- （7）教育ワクフ（当館注：イスラム社会における財産寄進制度）に係る協定
- （8）高等教育奨学金に係る議定書

3 共同声明の発表

同日夕刻、両首脳は要旨以下のとおり共同声明を発表した。

(1) 二国間関係

2010年に行われたアブデル・アジズ大統領のトルコへの歴史的訪問により、特に投資、技術支援及び経済交流分野における二国間パートナーシップの優先順位が高まりを見せた中、今般エルドアン・トルコ大統領はモーリタニア・トルコ二国間関係強化のためモーリタニアを訪問した。

(2) 二国間協力

両首脳は、投資促進のための取組を通じて、農業、インフラ、観光、再生可能エネルギー、鉱業、化石燃料、移民政策及び商業分野における両国の経済パートナーシップを強化する決意を表明した。

(3) 今次訪問フォローアップ

両首脳は、両国政府に対し、今般両国が合意した全ての協定が確実に実施されるようフォローアップするための委員会を設置するよう指示を与えた。

(4) モーリタニア・トルコ経済フォーラム

両首脳は、ヌアクショットでのモーリタニア・トルコ経済フォーラム開催に満足感を示すとともに、両国の経済的可能性を最大限に活用すべく両国のパートナーシップを強化するために、官民双方を刺激する適切な措置を講じることを決定した。

(5) その他

エルドアン・トルコ大統領は、今次訪問の返礼として、アブデル・アジズ大統領をトルコへ招待し、アブデル・アジズ大統領はこれを快諾した。

4 両首脳による記者会見

同日夜、両首脳はヌアクショット国際空港VIPホールにおいて記者会見を行い、要旨以下のとおり発言した。

(1) アブデル・アジズ大統領

ア 2017年のモーリタニア・トルコ間の貿易(額)は2015年比で20%増となっており、エルドアン・トルコ大統領の今次モーリタニア訪問により、今後、農業、鉱業、商業及び観光といった戦略的分野における二国間協力が進展する。

イ エルドアン大統領の今次モーリタニア訪問は、パレスチナ問題をはじめとする主要課題に関する意見交換を行う貴重な機会となった。パレスチナ問題については、国際法及び関連安保理決議に基づき、エルサレムを首都するパレスチナ独立国家建設のための平和解決手段を全面的に支持することを確認した。

ウ テロ、過激主義、密輸及び麻薬の不正取引といった脅威に晒され、これら脅威に立ち向かっている我々G5サヘルに対するエルドアン大統領の支援を高く評価する。

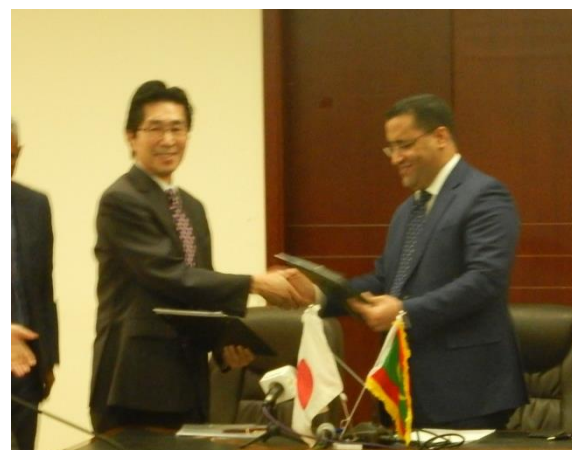
(2) エルドアン・トルコ大統領

- ア 今次モーリタニア訪問は、トルコ大統領初のモーリタニア訪問であった。
- イ 客年12月、チャヴシュオール外務大臣がトルコ経済界の人々と共にモーリタニアを訪問した。今次訪問にも大勢のトルコ経済界の人々が同行し、モーリタニア経済界の人々とモーリタニアへの投資機会につき協議した。
- ウ 現在、モーリタニアにおいて、40隻以上のトルコ漁船が操業しているため、我々は漁業分野での協力の重要性を認識している。また、モーリタニアは鉱業分野で大きな潜在力を有しているが、トルコは同分野における長年の経験を有している。
- エ トルコは、G5サヘル諸国が直面する危機を最も理解している国の一つであり、ブリュッセルで開催されたG5サヘル支援国会合においても、G5サヘル合同部隊に対する5百万米ドルの支援を表明したばかりである。
- オ テロ組織「ギュレン運動」との戦いにおけるモーリタニアのトルコに対する支援に感謝申し上げる。今般、我々は教育ワクフを設立したが、かつて「ギュレン運動」が所有していたすべてのトルコ人学校は、このワクフに移譲される。
- カ トルコは、今後130人のモーリタニア人学生に対し奨学金を支給する。
- キ トルコは、トルコ国民及び国家にとり、モーリタニアをはじめとしたアフリカ諸国との関係構築が重要性であることを認識している。
- ク パレスチナ問題については、客年12月13日にイスラム協力機構の議長国トルコがイスタンブールで開催したエルサレムに関する首脳会合は、重要な第一歩であった。ご存じのとおり、エルサレムは我々にとって極めて重要であり、また、キリスト教世界においても同様に重要な都市である。国連総会において米国によるエルサレムのイスラエル首都承認撤回を求める国連総会決議に128か国が賛成票を投票し、国家とも言えない8つの弱小国のみが米国を支持しているという事実から、米国によるエルサレムのイスラエル首都承認は無効であることは明白である（3月1日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））。

【経済・開発協力】

●食糧援助に係るE/N等への署名

1月11日、清水大使はジャイ経済・財務大臣と共に、供与金額4.8億円の平成29年度対モーリタニア・イスラム共和国無償資金協力（食糧援助）に係る交換公文（E/N）等の署名・交換式を実施した。



●FAOによるサバクトビバッタ対策支援

1 2月12日、ヌアクショットにおいて、ウルド・マンマ農業大臣とウルド・ハムニFAO西部地域サバクトビバッタ対策委員会（CLCPRO）事務局長との間で、モーリタニアをロジスティック基地とする西部地域介入部隊（FIRO）の設立に係る合意議定書への署名が交わされた。

2 同合意議定書は、FIROの設立及び展開に向けた、今後のモーリタニアとCLCPROとの協力方法を計画することを目的とする。同議定書においては、2022年までにモーリタニア国立サバクトビバッタ研究所（CNLA）に対し、調査・監視業務を行うための4輪駆動車11台が供与されることも定められている。

（13日付当地政府系紙「オリゾン」（仏語）他）

●古澤満宏 IMF 副専務理事の当地訪問

1 ハッターミン首相表敬後（16日）の古澤副専務理事の発言

（1）（ハッターミン首相との会談において、）過去2年間のIMF支援による各経済プログラムの立ち上げ及びモーリタニア当局の同プログラム実施に係る決意、並びに2017年12月にIMFによって承認された、3年間で163.9百万米ドルの支援を提供する拡大クレジット・ファシリティ（Facilite elargie de credit）を歓迎した。本プログラムにより、IMFは、モーリタニアの成長戦略を支え、構造改革を後押しすることとなろう。

（2）自分（古澤満宏IMF副専務理事）からは、国債の信用力を保証しつつインフラを強化し雇用を創出するため、慎重に投資戦略を実施する必要がある旨、他方で、インフラに対する出資の必要性はあるが、非譲許的借入は回避し、債務管理を改善しなければならない旨を強調した。

（3）民間部門の発展及び雇用創出を促進するため、腐敗対策を強化するとともに、ビジネス環境を改善することが重要である旨を強調した。

2 その他当地訪問日程

（1）同副専務理事は、アブデル・アジズ大統領、ジャイ経済・財務大臣、モーリタニア中央銀行（BCM）総裁及び多数の政府・公共部門関係者、並びに民間部門及び組合関係者等とも意見交換を行った。

（2）当地北部ヌアディブ経済特区を訪問し、関係者との会合を行ったほか、行政手続単一窓口（税関関係を除くあらゆる投資・企業活動に関する行政手続を一括して担う窓口）、ヌアディブ商港（PAN）の拡張部及びモーリタニア鉄鋼公社（SNIM）を視察した。

（19日付当地政府系紙「オリゾン」（仏語）他）

● 「ヌアクショット・セブハ保健センター衛生改善計画」署名式の実施

2月28日、清水大使は、平成29年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「ヌアクショット・セブハ保健センター衛生改善計画」の署名式へ出席した。本支援により、施設周辺の外床の嵩上げ工事、トイレ施設の整備、後産処理施設の設置、焼却炉2基の設置及び発電機防護施設の補強が実施される。



【治安情勢】

● 北アフリカ・サヘル地域治安情勢（マリにおける仏軍車列襲撃事件に係る「ISIL 大サハラ」犯行声明）

1 ISIL 大サハラの首領アブー・アル・ワリード・サハラウィーは、米軍、仏軍、マリ軍及びニジェール軍を標的とした複数の襲撃事件について犯行声明を発出した。

2 サハラウィーは、ヌアクショット通信（ANI）が入手した同声明の写しにおいて、11日朝に同氏の戦闘員たちが自動車爆弾を用いて仏軍車列を襲撃し、仏軍の装備を破壊し仏軍兵士を殺害した旨語っており、昨年10月4日のニジェール、Tongo Tongo における米軍特殊部隊襲撃（米軍兵士5名及びニジェール軍兵士4名が死亡）についても同氏の戦闘員たちの犯行であることを明らかにした。

3 同氏は、昨年、ニジェール・マリ及びニジェール・ブルキナファソ国境地帯におけるニジェール軍を標的とした複数の襲撃事件並びにメナカ（マリ）の南西におけるマリ軍及びPLATEFORME 襲撃事件についても犯行を認めた。

（1月12日付当地独立系ニュースウェブサイト「ANI」（アラビア語））

●マリ北部におけるマリ軍兵士殺害事件等に係る「イスラムとムスリムの支援団（JNIM）」犯行声明

1 イヤド・アグ・ガリ率いるJNIMが、27日にトンブクトウ州スンピ村の軍事基地を攻撃し、マリ軍兵士十数名を殺害するとともに、マリ軍から車両6台、大量の小火器・重火器及び弾薬を奪取した旨の犯行声明を発出した。また、JNIMはこの攻撃によって4名のJNIM戦闘員が死亡したことを認めており、後の調査でこの4名の戦闘員はマリ出身であったことが判明した。

2 また、JNIMは、28日のメナカにおけるマリ憲兵隊野営地に対する攻撃に係る犯行声明を発出しており、同声明の中で、多数のマリ軍兵士を殺害し、大量の武器を奪取したことやJNIM戦闘員2名が死亡したことを明らかにした。

3 さらに、JNIMはアムシャーシュ軍事基地（当館注：マリ北部テッサリト近郊）をミサイルにより攻撃し、この攻撃により同軍事基地に甚大な被害を与えたとの犯行声明も発出した。

4 このほかにも、JNIMは12日のキダル州Aghrghar、同テッサリット及び同アゲルホック間を走行中の国連軍（MINUSMA）車列に対する自爆ベルトを用いた攻撃、また9日にモプチ州Jny地区、12日にモプチ州スンピ及び同Humbre間における計2回のマリ軍に対する待ち伏せ攻撃についても犯行声明を発出し、同声明の中でこの2回の待ち伏せ攻撃の結果、マリ軍兵士1名が死亡、複数のマリ兵士が負傷、複数のマリ軍車両が大破し、JNIMは大量の武器をマリ軍から奪取した旨明らかにした。

（1月30日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル・アフバール」（アラビア語））

●マリ北部での仏軍人死傷事案に係る「イスラムとムスリムの支援団」犯行声明

2月21日に北東部ガオ州と同メナカ州の州境において、仏軍人2名が死亡し、同1名が負傷した事案に関し、「イスラムとムスリムの支援団（JNIM）」が、23日付で犯行声明を発出した（2月23日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」（アラビア語））。

【広報文化】

●柔道日本大使杯の実施

在モーリタニア日本国大使館は、青少年・スポーツ省、モーリタニア柔道連盟及び「山本」道場を共催機関とし、当地初の柔道日本大使杯を実施した。当地で試合出場機会を得ることができない柔道選手に対し、日ごろの練習の成果を発揮する機会を提供し、彼らのモチベーション維持に貢献する機会となった。



(7)